

区政と議会のホンネを報告!

せたがや 1/50

〒157-0063 粕谷3-15-3 (TEL&FAX 3307-1179)

グーグル検索等で、おおば正明 と入力すれば おおば正明 @ 世田谷区議 がヒットします。私のホームページです。

ひとくちメモ

議員数	50名
役所の部課長	165名
役所の係長	1144名
他の職員	3775名

(2012年4月1日現在)

役所情報・不正そのほかとんでもないことを御存知の方はメールで

110ban@t3.rim.or.jp

http://www.t3.rim.or.jp/~110ban/
 http://ooba.muse.bindsite.jp/
世田谷行革110番
 世田谷区議会議員 **おおば正明**
第48号 2012年9月

世田谷区政・検証

パフォーマンス政治の行き詰まり
「劇団ひとり芝居」から役人任せの保坂区政

「区政の転換」どころか「公約の転換」のほうが先になってしまった保坂区長。【これ意外と知られていない事実…右記事参照】保坂区長の「4大見直し公約」期待から裏切りに変わった「民主党政権」と同じで、急激に役人任せの区政に変わろうとしています。マスコミ人気の高い保坂区長もこれまでの「好きなコトしかしない」「マスコミ受けが第一」「区民に会っても何がしたいのか決断できない」「おカネのことはあと回し」等々の「ひとり芝居区政運営」が暗礁に乗り上げて（当然の帰結!）役人の書いたシナリオに白旗を上げているのが現状です。今回も、おおば正明が敢えて不人気覚悟(?)でお伝えする区政分析レポート、お読み下さい。

公約実現ならず「ひとり芝居」で下北沢ストップ?



左は7月5日の読売新聞。小田急線の地下化に伴い（現在の線路部分が地下に潜り）地上に長大な「跡地」が出現する。その「跡地」利用について区長が素案を発表したというもの。素案は防災や緑の観点から魅力的なものだが、実はコレ他人（小田急）の土地。了解もなく保坂区長の独断でこんなことを発表された小田急は困惑し事業主体の都も激怒。

他人の土地に許可もなく区長が独断で計画図を発表! こんなことを個人がやられたら...

公共性を論じられる場(協議会)ぶち壊して素案さえも暗礁に?

【解説】現在の世田谷区の立場

「跡地」は基本的には、小田急の所有となるが、連続立体交差事業に多額の税金が投入されたことにより、一概に企業の私有地だと心情的に言いづらい面がある。(公共性の問題。これは区としても主張している所)

さらに公租公課分という、固定資産税を免除する代わりに相当額の土地利用を無料で認める制度があり、世田谷区は約1,900㎡の面積を無料で利用できる。(かわりに小田急は「跡地」の固定資産税を払わない)

一方、区として計画全体でどれくらいの面積が必要かと言えば合計9,200㎡は必要と区は述べている。これだけでも、上記、公租公課分では足りない。

従って足りない分をどうするか、方法は3つ。世田谷区が土地の利用権をかうか(地下に鉄道が走っているため土地取得はできない)、或いは使用料を払うか、もしくはそれらの合わせ技。(取得する部分と使用料を払う部分の混在)

ただし世田谷区としては(国等の補助金が出るので)利用権を取得した方が有利なのに対し、小田急とすれば逆に借りてくれた方が永久的に使用料が入るのでトクという根本的な利害対立がある。

このように、「跡地」利用といっても微妙な条件調整が山積だったのである。(保坂区長のやったことは、世田谷区の自前の土地ならば全く問題はない。取得の可否も賃借の可否も決まらない他人の土地にやったから問題なのである)

今後、小田急がビジネスライクに徹してきたら世田谷区は財政的に厳しくなることは必定である。

地下化によって生じる「跡地」をどう利用するか、区民意見を取り入れて考えることは当然である。

しかし、これはあくまでも交渉ごと。交渉相手を怒らせてしまう手法をとる区長など聞いたことがない。

結果として8月15日の日経(裏面参照)が伝えるところによれば相手側は「素案を撤回しない限り協議には応じない」という強硬姿勢に。(連立協議会の枠組みを壊してしまった)

素案の発表がなぜいけないのか?という議論以前に、素案の位置づけすら協議が整っていなかったという基本的な曲解があり、話にもならない。

こんなことをして、協議の場をぶち壊し、保坂区長は本当に「跡地」を区民のために考えているのだろうか?

世田谷区長に求められるのは、土地の所有者に対する粘り強い交渉であり、公益性・公共性の観点から譲歩を引き出すことである。

仮に公約倒れの区長が「仕事やっています」というだけのアリバイ作りのために「暴走」したとしたら、一体区長はどこを向いているのだろうか?

保坂区長の「4大見直し公約」はどうなった?

- 外環道問題
- 二子再開発
- 京王線高架
- 下北沢再開発

保坂区長当選の原動力となった大型開発の見直しはどうなったか?まず国会議員時代から問題にしていた外環道、これは昨年12月に(工事着手のための)区有地を国に提供することを保坂区長自身が認めスタート。



実は私のところに、保坂区長が最近会ってくれないといった苦情が来ている。恐らく区長室あたりが気を利かして対応しているのかも知れない。変わってしまった以上、話すことはない、そういうことなのだろう。それにしても無理な公約をしてしまったことを一度区民に謝るべきではなからうか。たった1年半でこれでは、期待し、信じた区民は泣いている!!

二子玉川再開発については今年度予算で7億円を減額したものの37億円もの巨額の補助金を区長判断で決定。

京王線高架については今年8月に「事業を進めます」という考えを都市計画審議会に意思表示しスタート。そして下北沢再開発については道路用地買収費の予算化を決定。たった1年半で「止める側」から「進める側」に「大変心」そして最後に残ったのが左の小田急線の地下化に伴う上部利用計画。区民と協同でプランを作成するのは良いことである。しかし交渉は相手のあること、不必要に相手を怒らせては、良い結果につながらない。そして「おカネのことはあと回し」という保坂区長の政治姿勢が問題の本質。

脱原発・情報公開に保坂区政 目をそむける保坂区政 知っていますか? 区長の個人プレーは目立っても

正直なところ、就任1年半になるが保坂区長が区役所を動かしている実感は乏しい。理由は、多くの管理職がホンキで保坂区長についていけないからである。なぜか?肝心の時に「決断」ができないからである。その例として保坂区長は部課長に会いたがらないという。部課長に会えば区長として決断を求められるからである。(決断から逃げまわっている感じ)“先送り”とは停滞そのものである。有能な管理職は開き直りか、宮仕えか、真剣に悩み始めている。

そもそも「区政の転換」とか「パラダイムシフト」とか言って乗り込んできた区長である。ものすごく構想があるかと思えば、なんと最初に幹部に命じたのは「丁寧にして下さい」の一言。「丁寧ってどういうこと?」と戸惑うなか指示の第二弾が「熊本区政からの95%の継続」ということで、大型開発を熊本区政よりもっと丁寧にしてしまったという、皮肉な結果に。

東京都に情報開示を求めている保坂区が 区では情報を非公開にする矛盾・・・?

区長が新たな方向性を示しても、調整不足だから区内には伝わらない。職員を新たな方向に動かすには、まさに多くの調整が必要となるのが役所だからである。調整を無視して、区長が言っただけでは、役人は従来通りの仕事を続けるだけである。

この1年、世田谷区政を震撼させている「デジコン事件」【裏面記事】の背景には世田谷区の、それも保坂区政になってからの情報隠しが山のようにある。保坂区長自身が京王線の地下化の積算根拠が非公開なのは許せん!と東京都に怒っているが、区長である世田谷区においても同じことをしている矛盾。

『区民参加と情報公開』を掲げながら古くなった世田谷区の情報公開条例への関心はナシ。相変わらず「丁寧な対応」みたいな言葉だけで何も決断しない。(その後情報隠しの役人は処分したが)さらに私たちが進めようとしている「脱原発」も川場村の移動教室を中止できないままである【裏面記事】

役所組織として「脱原発」への取り組みは避けて、個人プレーとして他の自治体に出ていって「脱原発」の旗手のように振る舞う「技」はお見事である。

私たちは世田谷区として「脱原発都市宣言」をしようと言っているのだが保坂区長には無視されている。区長は肝心の世田谷区で決断しないのである。

「おカネ」と「締め切り」はあと回し

保坂区長の思考方法の根っこにあるのは「おカネのことと締め切りはあと回し」というもの。だから身軽に区長パフォーマンスができて、周りは(と言うより普通の社会では)ついていけない。おカネのことをしっかり考えること(財政計画)と締め切り(実施計画)は車の両輪である。何やら普天間で踊いた鳩山某元首相のイメージとダブルのは私だけだろうか。

